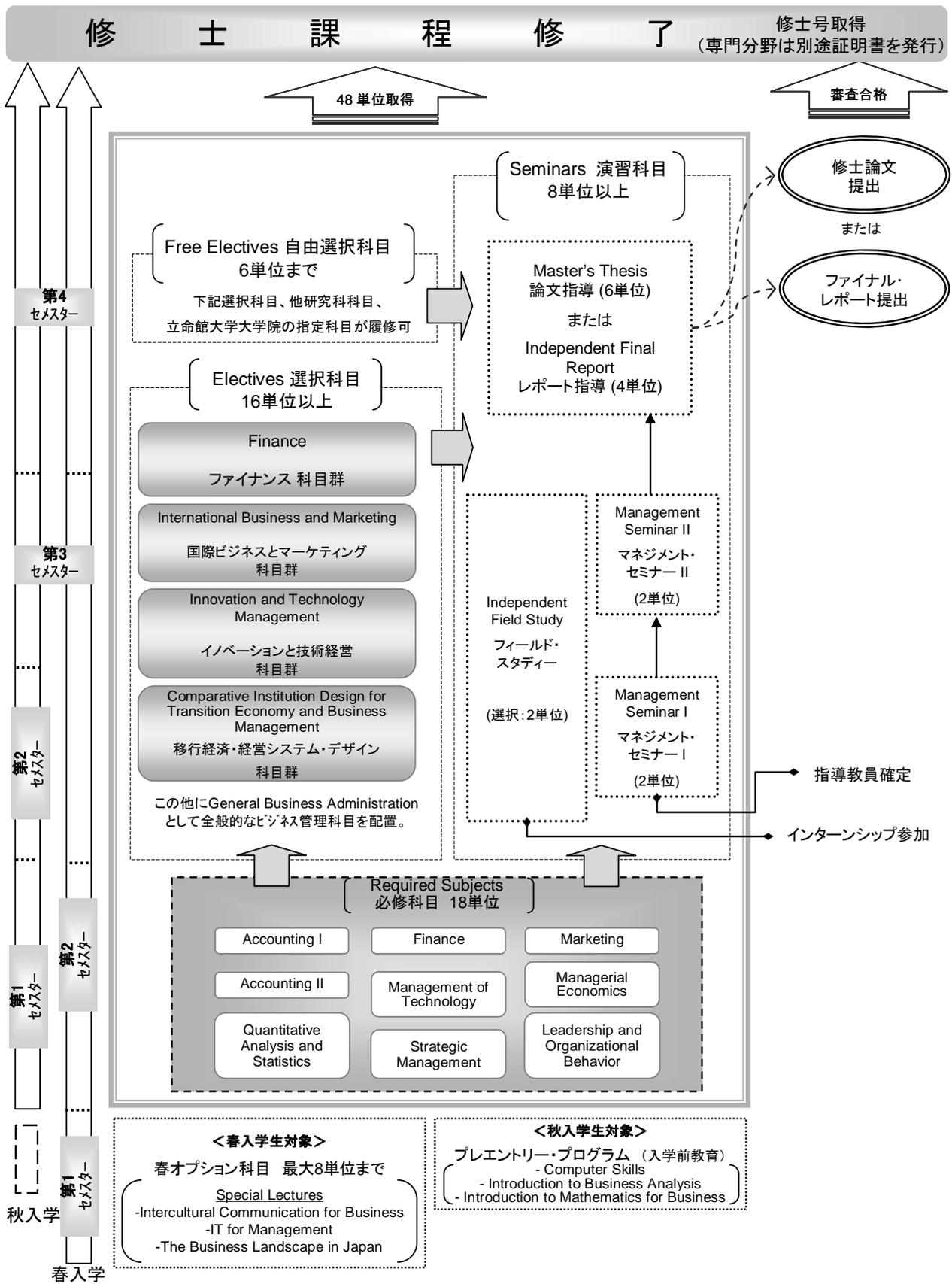


教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	立命館アジア太平洋大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	立命館アジア太平洋大学MBAプログラム (アジア太平洋で活躍する経営管理人材の育成)		
主たる研究科・専攻名	経営管理研究科経営管理専攻		
(他の大学と共同申請する場合の 大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 難波 正憲		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>本教育プログラムは、アジア太平洋地域における企業やその他組織に関する経営上の諸課題の解決のために中心的な役割を担う総合的なマネジメント人材を育成することを目的とする。</p> <p>この目的を達成するため、本教育プログラムは以下に述べるように、欧米における先進ビジネス・スクールのMBAプログラムとほぼ同様なフレームワークを有しつつも、本学の特色を織り込んだものとなっている。</p> <p>学生は、<u>秋入学を基本とし、2年間の修学期間に48単位以上を修得して、経営管理研究科修士号(MBA)を得て卒業に至る。</u>但し、成績優秀で鋭意学業に励む学生は、卒業に必要な48単位を1年半で修得し卒業することもできる。一方、諸事情により春入学を希望する学生も多いので、春入学も認めている。しかし、必修科目を中心とする本格的な講義が始まるのは秋学期であるから、春入学者は春オプションと呼ばれる選択科目群を履修しつつ、秋の本格開講に備えることとなる。なお、秋入学者中の希望者に対しては、本格的開講に備えるため、短期のプレントリー・プログラムが提供される。</p> <p>本プログラムの履修科目は、必修科目、選択科目、修士論文やファイナル・レポートを含む演習科目に分かれ、各々18単位、22単位、8単位、合計48単位を修得することが修士課程修了要件である。内容的には、これらの科目全体を通して“<u>アジア太平洋へのフォーカス(Focus on Asia Pacific across Curriculum)</u>”がモットーとなっている。すなわち、これらの科目は、<u>学生が経営管理に係わる諸分野における専門的な知識を基本から高度なレベルまで学べるだけでなく、これらの知識を、アジア太平洋地域の政治・社会・経済・文化的多様性や、この地域に特有な急速な経済発展やそれに伴う様々な課題、不確実性といった文脈に照らして、深く修得できるようになっている。</u>講義や討論は全て英語で行われるが、<u>経済・ビジネス情報の収集や評価に際しては、日本語、中国語やその他のアジア言語を駆使し、その要点を英文でまとめ、クラスで共有化することが奨励・実践されている。</u></p> <p>また、学習においては、<u>単なる知識の修得に留まらず、これを現実の社会で生かしてゆくコミュニケーション能力、創造力、企画実行力、リーダーシップや、卒業後も継続して自己研鑽を続けイノベーションを目指す起業家精神を培うことに主眼が置かれている。</u></p> <p>入学資格に関しては、<u>理系文系を問わず学士号を有することを基本としているが、様々な背景や高い能力を持った多様な学生をリクルートする努力が払われており、現在は49名の在籍者のうち9割の学生が留学生である。</u>選考は、<u>学業成績、実務経験(3年以上が望ましいが必須ではない)、英語能力、GMAT (Graduate Management Admissions Test)、学修・研究計画やキャリアプラン、推薦状、面接結果などを総合的に判断して行われる。</u>日本政府や母国政府の奨学金を得て推薦されてくる留学生の審査基準もこれに準じており、<u>国際的に見て高い水準が維持されている。</u></p> <p>さらに、学生としては、<u>MBA取得を目指す正規学生のみならず、短期間(4ヶ月～1年)在学し、カリキュラムの一部を選択し集中的に学習する日本企業よりの派遣者も積極的に受け入れている。</u>その選考基準も上記に準じている。</p> <p>本プログラムは教員による持続的な研究および教材開発の活動に支えられており、<u>学内における学際を超えた協力や、FD活動、国内外のビジネス・スクールとの協力や共同研究、学生交換などを今後鋭意増強してゆくこととした</u>い。</p> <p>さらに本研究科では、<u>地域貢献の一環として、学期中、あるいは夏冬の休暇中セッションを通じて、正規カリキュラム以外のマネジメント・セミナーを本学で開講し、広く一般市民を受け入れている。</u>また、学外においても、主に九州主要都市で毎年実施しており、今後も継続してゆく予定である。</p> <p>本プログラムは開設以来まだ4年目と日が浅いが、<u>鋭意内容の充実をはかり、アジア太平洋地域を代表するビジネス・スクールとなり、そのミッションを達成してゆきたい。</u></p>			

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「アジア太平洋地域における企業やその他組織に関する経営上の諸課題の解決のために中心的な役割を担う総合的マネジメント人材を育成する」という人材養成目的が明確にされ、多様な地域からの学生受け入れのため、秋入学を基本とし、英語による体系的なコースワークが設定されており、今後の展開が期待できる。

教育プログラムについては、アジア太平洋地域と企業連携に重点をおいた意欲的な試みであり、地場産業のケース設定など、いくつか注目すべき取組が認められるが、教材開発の方法など、実現可能性の面から、更なる計画の具体化が必要である。